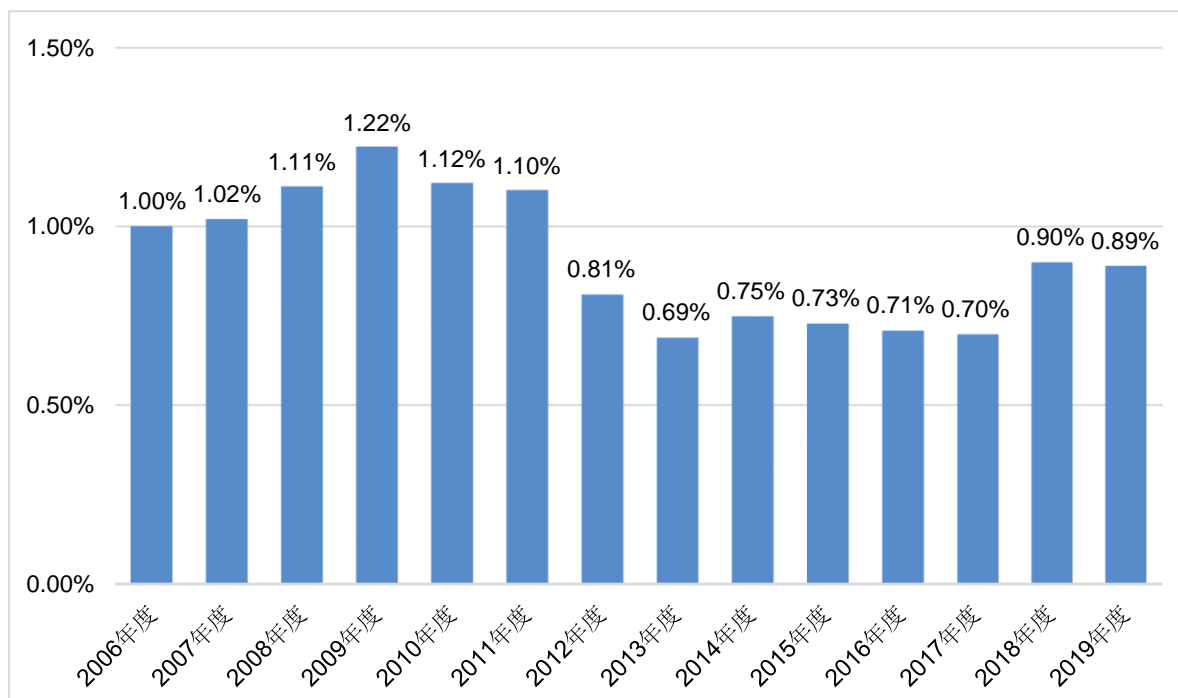


7. 褥瘡発生率



褥瘡は患者の QOL の低下を招き、在院日数の長期化や医療費の増大にもつながるため褥瘡対策は医療・看護・ケアの重要な評価の指標の一つである。

褥瘡対策実務委員会（以下、実務委員会）により、積極的な予防策、早期の治療・ケアが行われ、重症化する患者は減少している。また褥瘡発生の危険性が高い患者に対して、皮膚・排泄ケア認定看護師が積極的に関わることで各病棟の意識や技術の向上を図ることができるようになりつつある。その結果、2008 年度を境に順調に褥瘡発生率は減少してきたが、褥瘡発生率は 1 % を下回ることがなかった。そこで、褥瘡回診の方法を見直し、褥瘡保有患者が多い病棟を集中的に回診し、そして体圧分散マットレス供給率を基に高性能エアーマットレスを購入した。さらに病棟のニーズに合わせて、勉強会の内容を実践で役立つ内容を取り入れたものにした。その結果、2012 年度以降の褥瘡発生率は 1 % を下回り、現在も維持できている（2016 年度全国平均 0.94% 日本褥瘡学会 HP より）。これは実務委員会の活動の成果とともに、看護師の褥瘡対策における質の向上によるものと考えられる。現在は褥瘡発生率の維持、更なる質の向上を目指し、部署を超えて褥瘡対策の現状を把握し共有できるよう、病棟褥瘡担当看護師が褥瘡回診に同行し、部署ごとに活動目標と計画を立てて取り組むなど、教育にも力を入れている。年 9 回の褥瘡勉強会ではより現場のニーズを取り入れたり、全部署で共有すべき褥瘡発生事例の検討会や褥瘡回診時の状況のフィードバック、またマットレスの劣化や汚染の調査をして、対象マットレスの交換を実施してきた。2020 年度は新たな取り組みとして、全医療従事者が褥瘡対策の知識が得られるよう、褥瘡勉強会の資料の配信を開始する。

今後も褥瘡発生率の低下を目指すとともに褥瘡ケアの質の向上に向けて、積極的な褥瘡対策に取り組んでいきたい。

データ提供 褥瘡対策実務委員会
看護部 公衆衛生看護科